

## 健康推進員活動における活動満足感、活動負担感の尺度開発

ムラヤマ ヒロシ\* タグチ アツコ\* ムラシマ サチヨ  
村山 洋史\* 田口 敦子\* 村嶋 幸代\*

**目的** 保健分野の住民組織活動の一つとして、行政養成型ボランティアである健康推進員活動が存在する。本研究では、健康推進員が活動する上で感じる満足感、負担感、すなわち活動満足感、活動負担感の尺度を開発することを目的とした。

**方法** 対象は、S 県 A 市および B 市で活動する健康推進員604人であった。予備調査として行ったインタビュー結果を参考に、活動満足感10項目、活動負担感14項目を作成し、内容妥当性を確認した上で、2005年9月に郵送法による無記名自記式質問紙調査を実施した。

**結果** 有効回答数は433票（有効回答率71.7%）であった。活動満足感、活動負担感について因子分析を行った結果、活動満足感は「活動愛着」、「自己利益」の2因子9項目、活動負担感は「日常生活負担」、「精神的負担」、「活動量負担」の3因子14項目からなる尺度が得られた。また、多特性・多方法行列を作成し検討した結果、活動満足感尺度においては収束妥当性が、活動負担感尺度においては収束妥当性と弁別妥当性が確認された。活動満足感尺度、活動負担感尺度それぞれの下位尺度ごとの Cronbach's  $\alpha$  は高く、尺度の信頼性が確認された。さらに、Item-Total 相関分析でも良好な結果が得られた。

**考察** 健康推進員活動における活動満足感尺度、活動負担感尺度の信頼性および妥当性は概ね確認され、十分に使用可能であると考えられた。

**Key words** : 健康推進員, 活動満足感, 活動負担感, 尺度開発

---

\* 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻地域看護学分野  
連絡先：〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1  
東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻地域看護学分野 村山洋史